

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200347		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホームお茶ばたけ神田		
所在地	佐賀県唐津市神田1209-10		
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年4月7日	外部評価確定日	令和3年5月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>有限会社 在宅介護お世話宅配便の会社理念である“関わり合って育ち合おう”の精神に基づき、家庭的な環境の下で日常生活の介助を通じて「自分らしく」イキイキと自信を持って生活を送って頂けるように、日々の安心と「ひと」としての尊厳のある生活の継続を目指しています。</p> <p>お客様ご自身の意志でできることを長く保っていただくために、畳の生活を基本とし、車椅子やベッドなどは使わない「地べたからの介護」を取り組むことにより、普段の生活の中で、全身の筋力や体幹バランスの維持・向上を目指します。</p> <p>又、R2.4月に隣接した敷地に「社会福祉法人みんなのお世話:子ども塾神田園(保育所)」がオープンしました。可愛い園児の笑顔や愛らしい手はお客様の母性・父性、満面の笑み表情を引き出します。お客様の優しい心やぬくもり、生きてきた知恵を子ども達に伝える役割など、幼老共生を大切にしています。</p> <p>ホームでの生活だけでなく、地域の一員として社会参加を通して、老いてもなお経験、学習することがあり、自分の役割や社会へ貢献ができることがあるのだという想いを継続していきたいと考えています。</p>
--

に

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者が想いを込めて創り上げた理念は職員に浸透し、実践できている。日々の関わりの中で、職員はごく自然に利用者と向き合い、共に暮らす家族のように見て取れる。また「地べたからの介護」では、椅子やベットは使わず、今できる事を活かした生活の中で、毎日の動きの積み重ねがリハビリの効果を生むと実感し、自信を持ってケアにあたっている。事業所内で行われる「いざり競争」は利用者の生活の中でのリハビリの効果が発揮できるところでもある。またコロナ禍で外出の控えや面会制限がある中、入居者は、ホームの中に閉じこもらず、感染予防対策を行いながら、隣接する保育園の園児とともに屋外での体操を行い、園児たちのにぎやかな声に和む日々で穏やかに過ごしている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「関わりあって育ち合おう」をスローガンとした会社理念を施設内に掲示。常に目に見えるようにしている。また、月に1回～2回スタッフ勉強会を行い会社理念の輪読を行っている。	理念は開所当時に代表者が考えたものである。代表者は今も現場に出ており、熱い信念を持ち、利用者や、家族、職員が三方良しとして「関わりあって育ち合おう」を実践している。日頃の関わりから代表者の考え方は職員に浸透し、勉強会で、職員から日頃の気付きや工夫の報告が行われると、代表者は報告に喜びを伝え、職員のやる気に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、法人全体で行うイベントへの参加を呼びかけ交流ができています。 ※今年度は新型コロナウイルスの感染予防の為、全ての行事が中止されており、交流はしていない。	自治会に加入している。本年度はコロナ禍で実現できなかったが、例年地域行事の餅つきや夏祭りに参加したり、また地域のイベント会場をかりて、法人全体で行われるクリスマス会や七夕会など利用者家族や多数の地域の方を招待し活動が行われている。また法人で職員の劇団を作り、地域で行われる行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等の中で、認知症の症状や支援方法だけでなく、高齢者虐待や感染症の予防等など、資料を基に説明を行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域運営推進会議を行い、事業所からの報告事項や活動内容、地域からの意見について話し合いが出来ている。話し合った内容については、スタッフ会議等で報告し、日常のケアに生かしている。	地域の理解と支援を得るための有意義な機会でもあり、メンバーは利用者家族、唐津市高齢者支援課、地域の民生委員、行政連絡員、在宅支援センターなど多数の参加がある。事業所活動報告や地域からの情報交換が活発に行われ運営推進会議の意義が活かされている。コロナ禍で年間計画通りには開催できなかったが、文書で報告して意見を貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者等へ運営や制度に関する疑問点をその都度確認をしたり、事故発生時の報告や対応、相談などを行い、協力関係や連携が取れている。	運営推進会議だけでなく、機会を見つけて代表者が行政の関係諸課に出かけることも多い。法人からは地域包括支援センターに出向いていることもあり、行政側には相談事も言いやすく、実直に対応してもらえる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修に置いて知識の習得に努め、身体拘束を行わない。地域運営推進会議や身体拘束適正化委員会等でも身体拘束の対象はないか確認を実施している。また身体拘束の指針を掲示し、常に目が通せるようにしている。	身体拘束がない支援については入居契約時に指針の説明を行っている。管理者は外部研修に参加し、その伝達や勉強会を年に数回行い身体拘束の事例はない。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もない。行動は抑えないのが基本であり、職員が目配り等によって自由で安全な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得、道徳性の向上に努め、虐待を行わない。さらに、虐待が見過ごされないように防止に努めている。また日々のケアの中では、常にお客様を敬う態度、言葉遣いを心がけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を受けている方、受ける必要がある方はいない。職員は外部研修や社内研修において知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者ならびにご家族へ十分な説明を行い、不安や疑問などに答え、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々のかかわりの中で意見や苦情を聴取できるよう努めている。収集、聴取できた意見は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	入居開始時に重要事項として相談窓口について説明し、意見箱も設置している。また運営推進会議の際に家族代表からの意見や要望を聞くようにしている。現在のコロナ禍で面会制限があり、ケアプラン提示等で家族の不安や意見が汲み取れるよう努めている。また、毎月送付されるホーム便りは、掲載される写真から利用者の日常が見え家族からは喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできるような関係づくりに努めており、業務改善や意見・疑問について、その都度、話し合い対応を行っている。また、会議等の中においても意見や提案を聞くようにしている。	毎月職員会議は行われている。代表者は今も現場に出ており日頃から全職員と気軽に意見や思いを伝えることができる関係性が出来ている。自由に発言できる職場環境で意見や提案に向き合う社風でもあり、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させるようにしている。また、賞与支給時に代表者が賞与を手渡しし、毎月給料明細は管理者が手渡し、相談や悩みを受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の会社内勉強会を設け、職員全員の知識、技量の向上ができるよう取り組みを行っている。今年度は研修会が中止になる事も多かったが、幹部研修会を定期的に行い、外部研修会も積極的に参加している。外部研修に参加した資料を基に社内勉強会で報告研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会参加や施設の視察者・実習生を受け入れ、会社内の他事業所との交流の機会を持つことで、職員の研修並びにサービスの向上につなげている。今年度の視察者・実習生の受け入れ等はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い、安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人及び家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族、担当の介護支援専門員などからの情報をもとに本人、家族を含めて関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている“関わりあって育ちあおう”に基づき、相互関係に努めている。掃除や洗濯物たたみ、調理・盛り付け等を一緒に行ったり、活躍等の経験談の傾聴により、作業のポイントや多くの知恵や知識等を学んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も介護者の一人であるという説明を行い、家族会等、会社・事業所・地域行事への参加を促し、職員とともに本人を支援していただけるように協力して頂いている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、家族会・行事等は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症で面会や外出を控えるようになってからは、必要時にテレビ電話等で対応し、関係の継続ができる支援に努めている。	入居前に本人や家族との面談や担当のケアマネージャーなどから利用者のこれまでの馴染みの人や社会との関係など情報を把握し、具体的な支援に努めている。例年盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席等も家族の協力を得て実現していたが、コロナ禍で面会や希望に沿って外出支援は難しくなっており、再開できるまで、いつでも可能な携帯電話などで関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人が家族の一員としてお互いを支えあうような関係になるよう、さりげなく職員がサポートに入るように努めている。職員だけではなく誰かがそばにいてくれるという安心感を持っていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業者などとの連携により随時連絡、相談が受けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の想いや言葉を傾聴し、関わりあうことで把握・実現できるように努めている。選んで頂いたこの場所でお客様が望まれる形で、尊厳ある最期を迎えて頂きたい。家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	日々の暮らしの中で、利用者のそばに寄り添い、とりとめのない会話やつぶやき、しぐさなどから細やかな把握に努めている。入浴時のゆっくりとした時間や、何気ない会話の中で利用者の希望や意向を把握することも多い。その情報は全員で共有している。また「地べたからの介護」を掲げられている通り職員は本人の意思を尊重し、本人が起きたい時に起き、寝たい時に寝る手助けを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族との面談を行い、関係者からの情報と併せて利用者についての把握を行う。また、入所後においても本人や家族との関わりや日頃のケアの中からも随時情報を取り入れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できるように努めている。気付くことを心がけ、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は本人・家族より意見を聴取し、反映させるようにしている。また、職員全体により計画、モニタリングについて話し合い、看取り時には主治医・ご家族・看護師等連携を行いながら話し合い、作成している。	利用者や家族の意向を活かし、利用者が自分らしく暮らせるよう、きめ細かく具体的に計画が作成されている。モニタリングも確実に行われ、利用者の状況によって柔軟に計画の変更も行われている。コロナ禍で面会が制限されている中、家族に電話で意向を聞いたうえで、介護計画書を作成し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個人記録を記入し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り、介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、その時にあった本人や家族の状況・思いに寄り添い適切な施設を法人全体で検討し、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、レクリエーション団体のボランティア慰問や消防署からの来訪指導も中止。隣接した保育園児との交流は外で行い、法人内事業所のグループホームのみ交流でお客様の心身の力を最大限に引き出し楽しみができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、協力医の往診や定期的な受診により体調管理を行っている。必要時には、本人・家族等の希望を代弁して主治医に伝え、主治医が本人・家族の希望に応じて下さるため、適切な医療を受ける事ができている。	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の往診や週1回の訪問看護で健康管理ができ、利用者や家族の安心感につながっている。他科受診時は家族付き添いを基本とするが、家族の都合がつかない時は職員が付き添いを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診・往診時に関わらず、随時主治医又は看護師への状況報告を行い適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努め、事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制等を相談したうえで、早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面により説明を行い、状態の変化に応じて適宜家族、かかりつけ医との話し合いを行っている。終末期ケアを行う場合は、常に家族の思いを主治医や職員と共有し、医療・介護・家族等のチームでケアを行っている。又、看取りケアの研修参加や勉強会の開催により共通理解を行っている。	入居時重度化した場合の対応について本人、家族と話し合いを行い、看取りについても家族の考え方を聞き取っている。これまでも看取りの事例は多い。家族からの信頼が厚く、施設で葬儀を行い職員、利用者全員で見送った事もある。他利用者家族からもここで最期を迎えたいと言われる程信頼されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応・事故発生時の対応」を取り入れ、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を実施し、実践力を身に付けている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、実践訓練は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・消防・通報訓練、避難経路の掲示、消防設備の定期点検等を行っている。毎回、訓練時には必ず消防署、地域の消防団に立ち会ってもらい、助言等を頂いているが、今年度は立ち合いを行っていない。	消防計画に基づき昼夜の火災想定避難訓練を年2回行っている。例年消防署、地域の消防団・防災関係業者の立ち合いで行っていたが、今年度はコロナ禍で立ち合いはなく事業所独自の訓練を利用者とともに行った。自然災害の対応マニュアルも備えている。食料、衛生用品など非常用備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に対応している。また、個人情報保護については、書面による説明・同意を得ている。	利用者本人の人格を尊重した言葉使いや口調に注意しながら、その人に合った言葉かけになるように努めている。ホーム便りに記載する写真などは、本人や家族にも承諾を得ており、個人情報についても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、実践できるよう関わりを密にし、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活を継続できるように、一人一人のペースに合った時間が流れるように配慮しており、随時利用者の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の入浴で清潔を保ち、利用者が主体となり時候に合った衣服などの身だしなみを行うことが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好みの物等を会話の中から聞き出したり、旬の物を献立に取り入れている。食材の買物、調理、配膳、後片付けの中でお客様が出来る事を職員と一緒にやっている。また、職員も同じ食事を同じ食卓と一緒に食べながら会話を楽しんで食事をしている。	法人が運営するレストランから副食のみ配食されている。週2回は事業所で調理され、旬のものを取り入れ、利用者の希望に沿った食事が提供されている。職員も利用者の中に入り、同じ食事を一緒にいただいている。誕生会などイベント時は利用者とともにケーキやおやつなど手作りし、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、食事量や水分量の把握・調整を行っている。必要な場合はかかりつけ医と相談し、量や内容の調整等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に適した口腔ケアを行っている。必要時には歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記録や排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やおむつ外しを行い、パットの使用を最小限にしている。必要なお客様には時間ごとにさりげなくトイレへ誘導するようにしている。本人の不安や羞恥心、プライバシーへの配慮を心がけている。全介助のお客様も布団上のパッド交換ではなくトイレにて排泄ができるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、その方に合わせたトイレでの排泄支援を行っている。基本的に最後までトイレで排泄する事を目標とし、利用者が尿意や便意を感じた際、這って移動しようとする動作を職員が声掛けてトイレまで誘導している。夜間もトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は職員勉強会等を通じてできている。また、食事ならびに水分の摂取量の把握に努め、日常生活の中で適度の運動を行っている。必要時には主治医・看護師との連携で相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴。また、利用者の生活習慣や希望に添えるように対応している。冬季など寒い時期や希望時には足浴も行っている。	毎日の入浴を基本としている。一人ひとりのプライバシーを尊重し、個浴でゆっくり入浴されている。入浴を楽しみにしている利用者も多く入浴の拒否はないが、体調に合わせ入浴ができない時は、清拭などで対応し更衣も毎日行い清潔保持に努めている。浴室の空調管理も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとられることなく、起床時間や就寝時間、昼寝等出来る限り本人のペースに合わせた利用者本位の生活を送れるようにしている。夜の安眠を誘うよう、十分に日中活動支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化することで随時閲覧把握できるようにしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認、効能の確認を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活習慣や馴染みの事を取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出などにより楽しく気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心がけている。利用者の希望に合わせて、出来る限り自由に外出が出来るようにしている。	例年利用者から外出の希望があれば、天候や体調をみて全員で出掛けている。利用者の想いに沿い、ドライブ等も多い事業所で、予定された外出であれば一緒に来る家族もある。今年度はコロナ禍ではあるが、万全な感染対策を行い、代表者は希望があれば利用者や家族と少人数での有料旅行も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っており、必要な時には随時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に随時対応している。テレビ電話や電話にてご家族とのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからテラスへ出るとみんなで朝陽を浴びながら腰を掛けて足浴を楽しめる。また、リビングルームは日当たりがよく、掘りごたつに座って落ち着ける空間になっている。	共有ホールの特徴として掘りごたつがあり、足を下ろし座る姿勢、そこから出て立ち上がり歩き出す一連の動作は、生活の中で自然に行うリハビリでもある。廊下の手摺りは敢えて付けず、利用者の動きには常に職員が寄り添い、見守っている。コロナ禍に関わらず、時折サッシ戸を開けて換気をし、手を触れる箇所の消毒も年間を通してこまめに行っている。浴室やトイレ等もきれいに掃除され嫌な臭気はない。事業所に隣接して保育園があり子供たちとの毎朝の体操も入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状態に合わせ、個人の居室の量にて個々がのんびりと寛ぐことが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、使い慣れた家具を持ち込んだりご家族が自由に飾ったり、馴染みの空間を作れるようにしている。	居室は全て畳敷きである。ベッドを使わず、布団の上げ下ろしが必要だが、職員と一緒にやる利用者もいる。「地べたからの介護」の取り組みが窺える。押入れがあり収納が出来ることですっきりと片付いている。職員は天気の良い日は寝具の天日干しも手間を惜しまず行っている。火気等の危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差を解消し、死角を出来る限り減らし、安心して能力を発揮できるよう配慮している。居室前には入居者本人の写真を飾るなど各自の居室を間違わないよう対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない